

モザンビーク北部・ロブマ堆積盆地のガス鉱区における開発状況

1. ガス鉱区の開発状況

モザンビーク国北部のカーボデルガード州に位置するロブマ堆積盆地には、大規模ガス田の AREA1 と AREA 4 の開発が進められている。

AREA 2 & 5 鉱区では、ノルウェーに本社がある Statoil が探査を行っていたが、同鉱区における商業開発の可能性は低いとの結果から、2014年に撤退している。

AREA 3 & 6 鉱区は、マレーシアの Petronas がオペレーターとして探査し、2012年には Total が40%の資本参加をしていたが、探査ライセンスの終了に伴い、2016年に Petronas は撤退した。代わって、Total が同鉱区のオペレーターとなり、90%の権益を取得している。

Area Onshore は、当初は Anadarko (米) がオペレーターとして探査をしており、2014年には Tembo 1 孔にてガスが発見されたが、2015年の探査ライセンス終了に伴い、Anadarko は同鉱区から撤退している。

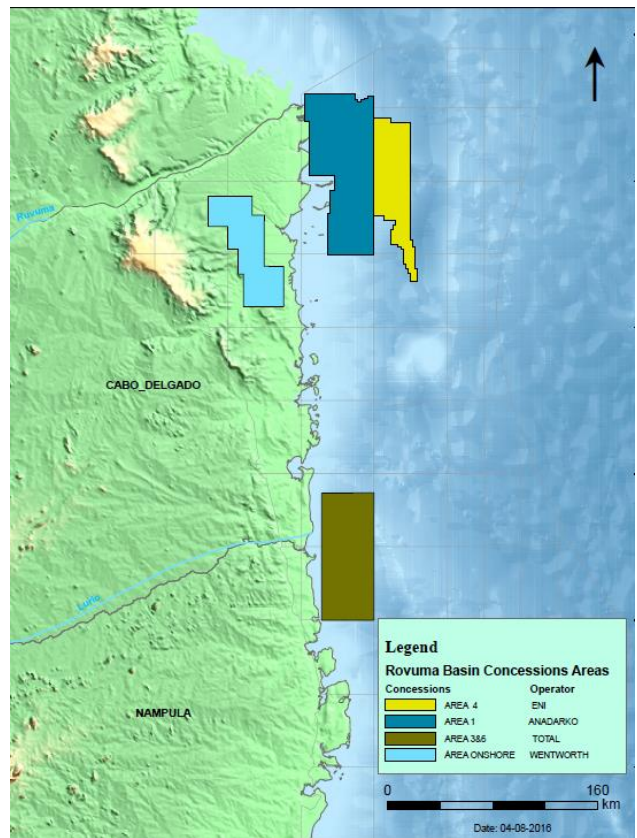


図1：ロブマ堆積盆地のガス鉱区の位置図

注：天然ガスの発見に伴い、鉱区からガス田のない地域が削除されている。

表1：ロブマ堆積盆地のガス鉱区

項目	AREA 1	AREA 4	AREA Onshore	AREA 3 & 6
オペレーター	Anadarko	ENI East Africa	Wentworth Resources	Total
本社	アメリカ	イタリア	カナダ	フランス
権益保有者	Anadarko (26.5%) Mitsui (20%) ONGC Videsh (10%) Bharat Petroleum (10%) PTTEP (8.5%) BREML (10%) ENH (15%)	ENI (70%) ¹ Kogas (10%) Galp Energia (10%) ENH (10%)	Wentworth (85%) ENH (15%)	Total (90%) ENH (10%) ²
可採埋蔵量	100 TCF ³	87.5 TCF	—	—
開発状況	AREA 1 と AREA 4 の 総合開発計画の合意	Coral ガス田の FLNG 政府承認	評価中	探査中

出典：INP、オペレーターのホームページ等

¹ ENI の70%権益には、中国のCNPC20%が含まれるが、CNPCは、ENIの現地法人であるENI East Africaへの株参加という形で間接的に参加している。

² ENHの権益は、交渉次第では、20%に増加する可能性がある。

³ TCFとは、trillion cubic feetの略。AREA 1とAREA 4の合計の可採埋蔵量は、187 TCF。

一方で、パートナーの Wentworth が Tembo 1 評価への関心を表明し、評価計画 (Appraisal Plan) を提出した。鉱物資源エネルギー省は、2016 年 6 月、Wentworth が提出した評価計画を承認したため、Wentworth が 85% の権益を有するオペレーターとなった。

2. AREA 1 と AREA 4 の開発状況

オフショアの AREA 1 には、約 100 TCF の天然ガス埋蔵量が確認されており、LNG 生産に向けて開発が進められている。2015 年 12 月、AREA 1 及び AREA 4 に跨るガス田、すなわち、AREA 1 の Prosperidade と AREA 4 の Mamba における統合開発 (Unitization and Unit Operating Agreement: UUOA) が AREA 1 と AREA 4 のコンセッショナー間で合意された。統合開発では、合計 24 TCF (各 12 TCF) の天然ガス埋蔵量を開発することが計画されている。統合開発では、カーボデルガード州北部の Afungi Park にオンショア LNG 液化設備 (1,200 万トン/年) を建設することが計画されている。また、AREA 1 では、天然ガスの国内使用に関するメモランダムをモザンビーク政府との間で締結している。生産開始時は 50 MMcf/d (million cubic feet per day) の天然ガスを国内市場向けに供給する予定であり、300 MMcf/d まで追加で供給することが見込まれている。AREA 1 は、日本の三井物産が 20% の権益を所有している。また、オンショア LNG 液化設備の EPC 契約には、日本の千代田化工を含むコンソーシアムが選定されている。

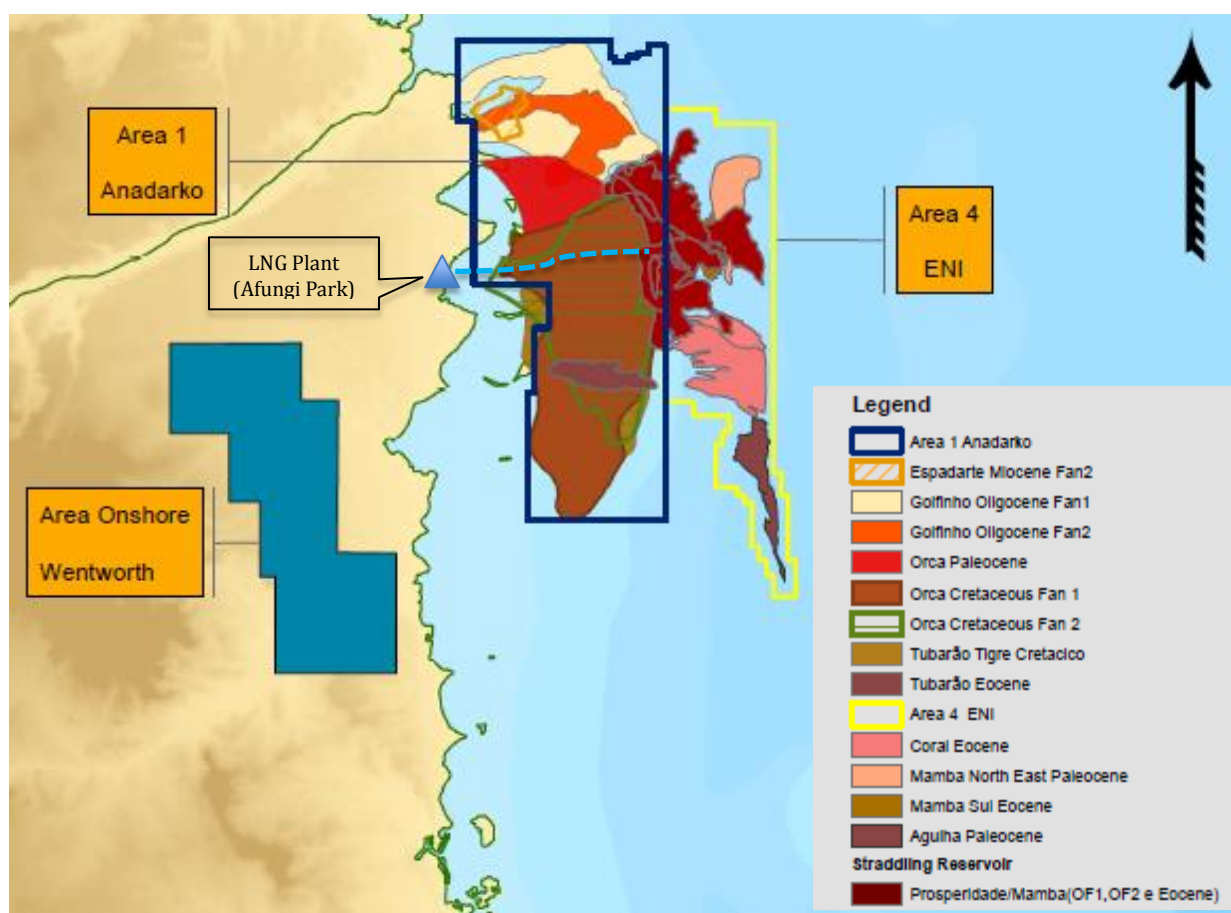


図 2 : 発見された AREA 1&4 のガス田と LNG 設備の位置図

AREA 4 の Coral ガス田では、2016 年 2 月、モザンビーク政府は、年間 340 万トンの LNG を生産するフローティング LNG 事業の売買契約（SPA）を承認した。ENI は、SPA 政府承認が下りたため、1 位入札者のコンソーシアム（Technip（仏）、日揮（日）、Samsung（韓））との FLNG 液化設備の EPC 契約交渉を開始している。ロジ支援設備については、ノルウェーの Aker Solutions 社との契約交渉、海底設備についてはアメリカの GE 社との契約交渉、掘削については ENI 傘下の Saipem 社との契約交渉を行うとの報道がある。FLNG から生産される LNG は、大手メジャーの BP に販売する予定であるが、AREA 4 のパートナーからの SPA 承認が下りていないため、現在、各パートナーからの SPA 承認の手続きを行っている。FLNG の最終投資決定（FID）は、年内に合意されることが見込まれている。

2016 年 4 月、前政権下での隠し債務が発覚してモザンビーク国の債務問題が悪化したことから、ENI の権益を Exxon Mobil に譲渡し、権益売却からのキャピタルゲイン税を徴収して、モ国の債務を軽減するという報道があった。Exxon Mobil 社の Rex Tillerson 社長は、2017 年 7 月下旬、ニュシ大統領と ENI 権益譲渡に関する会談をしたと報道されており、Anadarko の権益についても交渉を開始しているという。